



大野棒踊り保存会会長
高橋純一 さん

この地域で育つからこそ、触れることのできるこの地域の伝統があります。子どもたちには、自分が育った地域を知って、その地域を好きになってほしいですね。踊りを子どもたちに短期間で教えるのは難しいですし、指導方法には工夫も必要で、わたしたちも学ぶことがたくさんあります。でも指導を続ける中で、地域の子どもたちを知ることができ、子どもたちも普段わたしを見掛けると声をかけてくれるんですよ。それは本当にうれしいですね。子どもたちに、いろんな経験をさせてあげたいです。

お指導を続けているのは、子どもたちにこの踊りに触れるきっかけをつくってあげたい、そしてこの地域のことを知って、この地域を好きになってほしい、そういう気持ちからだとか会長の高橋純一さんは話します。その思いはまた、熱心な指導にも表れます。

「棒踊りにも奴踊りにも、一つひとつの動きに歴史がある」子どもたちは、指導者のその言葉を噛みしめるように、懸命に練習に励みます。地域の大人たちは、お手本を見せながら、ていねいに、時には厳しく、返事やあいさつなどの礼儀を重んじながら指導を重ねていきます。そこには、まるで自分の子どものように児童と接し、向き合い、指導している姿がありました。

学校や家庭以外で大人と触れ合う機会が少なくなつたといわれる現代で、ここには地域のつながりが22年もの間つづられています。

練習が休けいに入ると、子どもたちは普段に戻って体育館を走り回り、無邪気な表情を見せていました。休けい中、水を飲みに行ってきた子どもたちに「どう？難しい？」と聞く。「動きは難しいよ。でも、楽しい。運動会楽しみにしててね」と笑顔で答えてくれました。

地域でこそ学べることがある

子どもたちには、学校だけでは学ぶことのできない経験がたくさんあります。長田地区のように、地域の大人と子どもの対話から生まれる発見があります。いろいろな世代の人たちとの交流を通して、さまざまな考え方に触れ、子どもたちは多くのことを学んでいきます。そういった経験を重ねながら、豊かな心が育っていくのです。ですから、子どもの教育には、学校教育だけでなく、家庭教育、地域教育が密接な関係を持つことが必要となります。地域の子どもたちに関心を持ち、見守って、日ごろの生活の中で、近所の子どもたちへ「行ってらっしゃい、気をつけてね」。わたしたちがこういった声掛けをすることだけでも、子どもたちは自分を気にかけていることを感じることができます。それは、子どもたちが成長していく中でとても大切なことです。

子どもは地域の宝だといわれます。地域で育っていく子どもたちのために、郷土の未来のために、まずはわたしたちも近所の子どもたちへ、声掛けやあいさつからはじめてみませんか。

つくるうー！三股の新しい伝統を！ 伝えよう！わたしたちの手で！

11月24日、本町で「文教みまた子どもサミット」が開かれます。

これは、昨年の広報みまた7月号でお伝えしました「小中一貫教育」の取り組みの一つで、今年初めての試み。町内すべての小学校と中学校で一緒になって取り組みます。

各小学校と中学校が集まった代表者が、サミット(メイン)会場である中学校体育館で、それぞれの学校の様子や取り組んでいることなどを発表し合います。

インターネット配信会場である各

小学校では、その様子をテレビを通して見ることができます。また、各小学校にいる児童から出た質問や意見は中学校へ集められ、サミット会場では意見交換も行われます。

これにより、ほかの学校の取り組みを知り、それぞれの学校の良さに気付いていくことで、自分たちの学校やこのまちへの誇りを再確認していくというメリットがあります。

新しい取り組みにより、子どもたちから新たな伝統が作り出されようとしているのです。

現在取り組んでいる小中一貫教育

「文教みまた」の伝統教育

- 一つ、出会った人には気持ちのよいあいさつをします。
- 一つ、登校・下校のときは校門できちんと礼をします。
- 一つ、授業の始まりには黙想をします。
- 一つ、無言清掃で学校をきれいにします。
- 一つ、「あいさつ運動」や「三股に関する学習」をします。
- 一つ、「みまたの日(三のつく日)」には、これらのことを振り返ります。

この6つの項目を、町内すべての小学校と中学校が共通して行っています。小学校の6年間と中学校3年間の計9年間を一つの流れとし、小学校から中学校への変わらない生活習慣の中で、スムーズな進学へつなげていけるというメリットがあります。また、全小中学校で共通のことを実施しているという一体感も生まれます。

また、この『「文教みまた」の伝統教育』は、町内6つの小学校すべ

での児童が、一つの中学校へ進学していくという本町の特性と、文教のまちと呼ばれるに至った歴史と伝統があること。これら2つの特性を生かして作られています。

そして、子どもたちが家庭や地域とのかかわりの基本となる「あいさつ、清掃、郷土愛」の指導を、将来にわたってまち全体で取り組む伝統教育を行っていくことで、子どもたちが郷土を誇りに思う気持ちをはぐくんでいくという思いがあります。

町教育研究会 伝統教育部会長
馬場真吾 校長
(梶山小学校)



「小中一貫教育」の取り組みを一時的なものとして、伝えていくルートを確立することを目的として、教育現場では新たに「伝統教育部会」を発足させました。この取り組みを将来にわたって受け継ぎ、さらには、あいさつや清掃のレベルも上げていきたいと思っています。

子どもたちがこのまちを誇りに思い、心の支えとなるような郷土でありたい。そのためには、学校だけではなく、地域、家庭が連携して、三股町の子どもたちを育てていくという意識が必要です。ご協力をお願いします。